

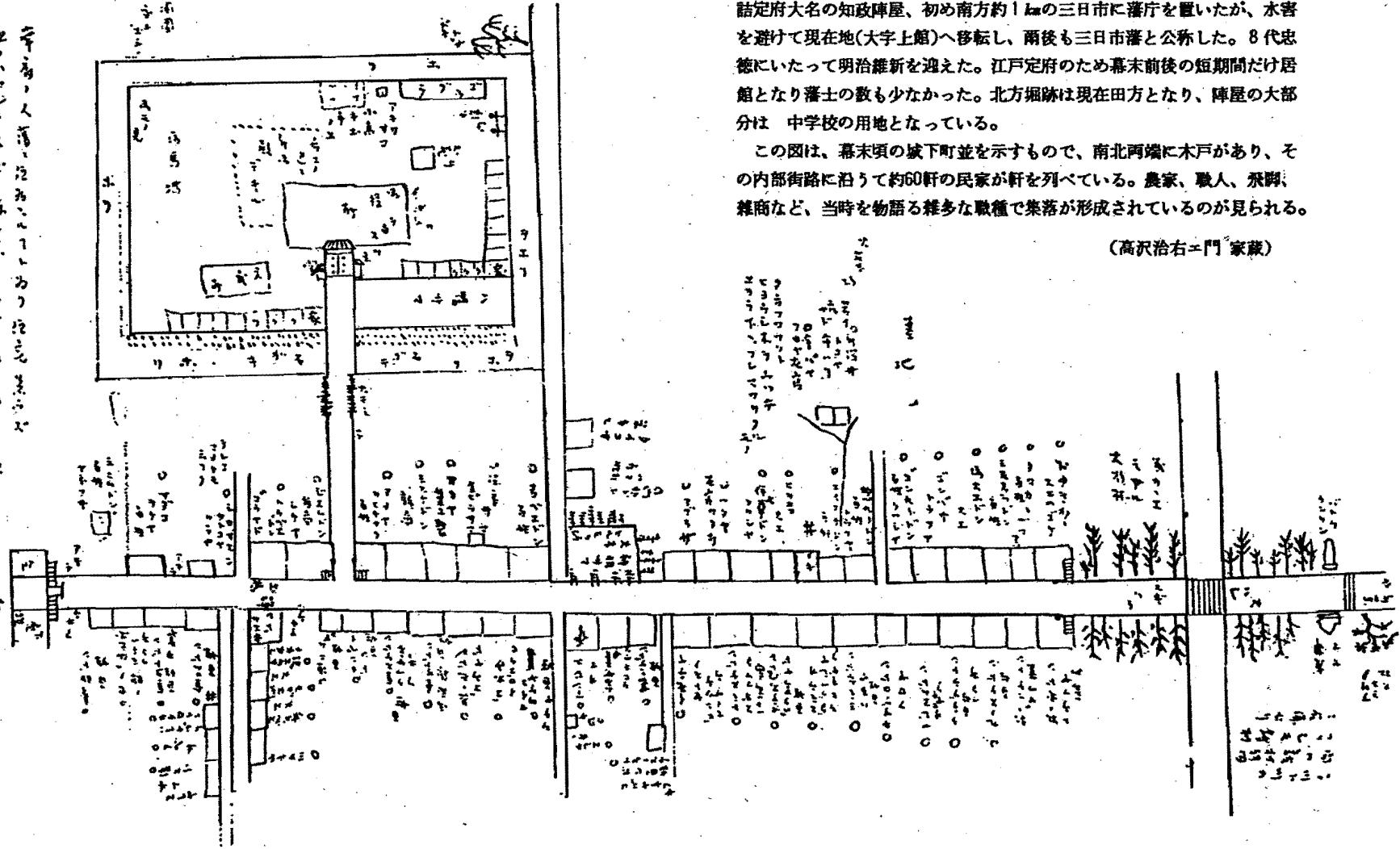
三日市藩館村陣屋付近古絵図

柳沢氏吉保五男時陸、享保9(1,724)年入部、1万石、譜代、帝鑑の間詰定府大名の知政陣屋、初め南方約1kmの三日市に藩庁を置いたが、水害を避けて現在地(大字上館)へ移転し、爾後も三日市藩と公称した。8代忠徳にいたって明治維新を迎えた。江戸定府のため幕末前後の短期間だけ居館となり藩士の数も少なかった。北方細跡は現在田方となり、陣屋の大部分は 中学校の用地となっている。

この図は、幕末頃の城下町並を示すもので、南北両端に木戸があり、その内部街路に沿うて約60軒の民家が軒を列べている。農家、職人、飛脚、雑商など、当時を物語る雑多な職種で集落が形成されているのが見られる。

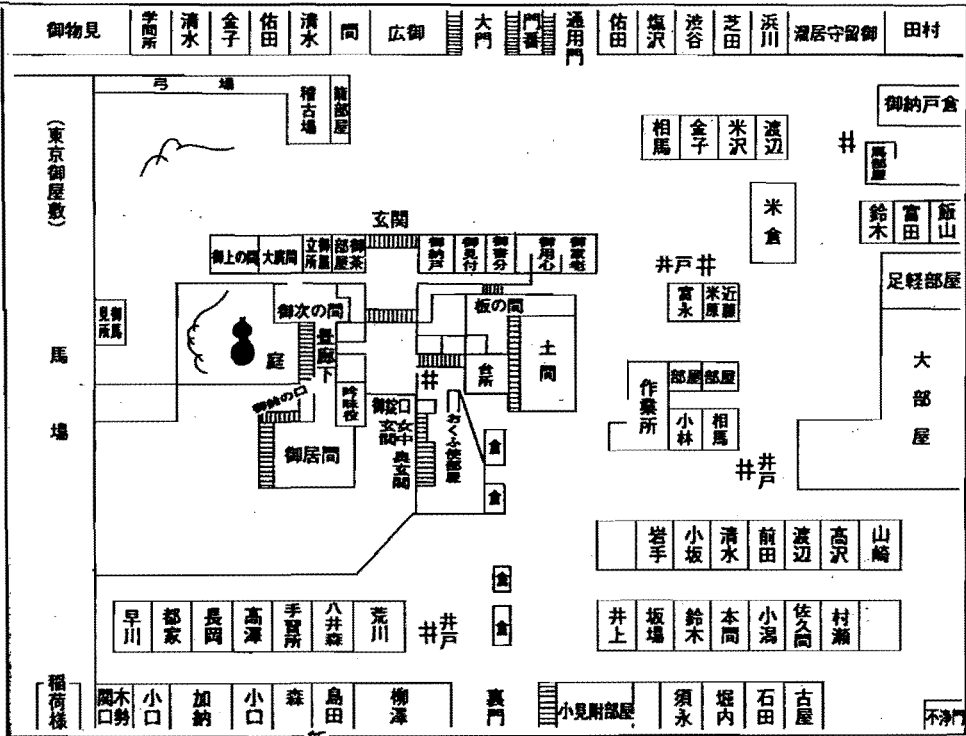
(高沢治右=門 家蔵)

三日市藩館村陣屋付近古絵図
 三日市藩館村陣屋付近古絵図
 三日市藩館村陣屋付近古絵図

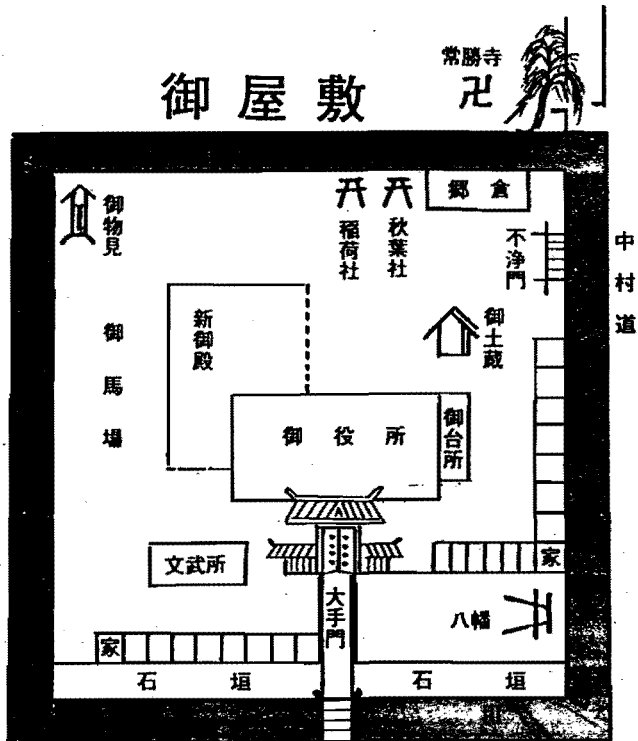
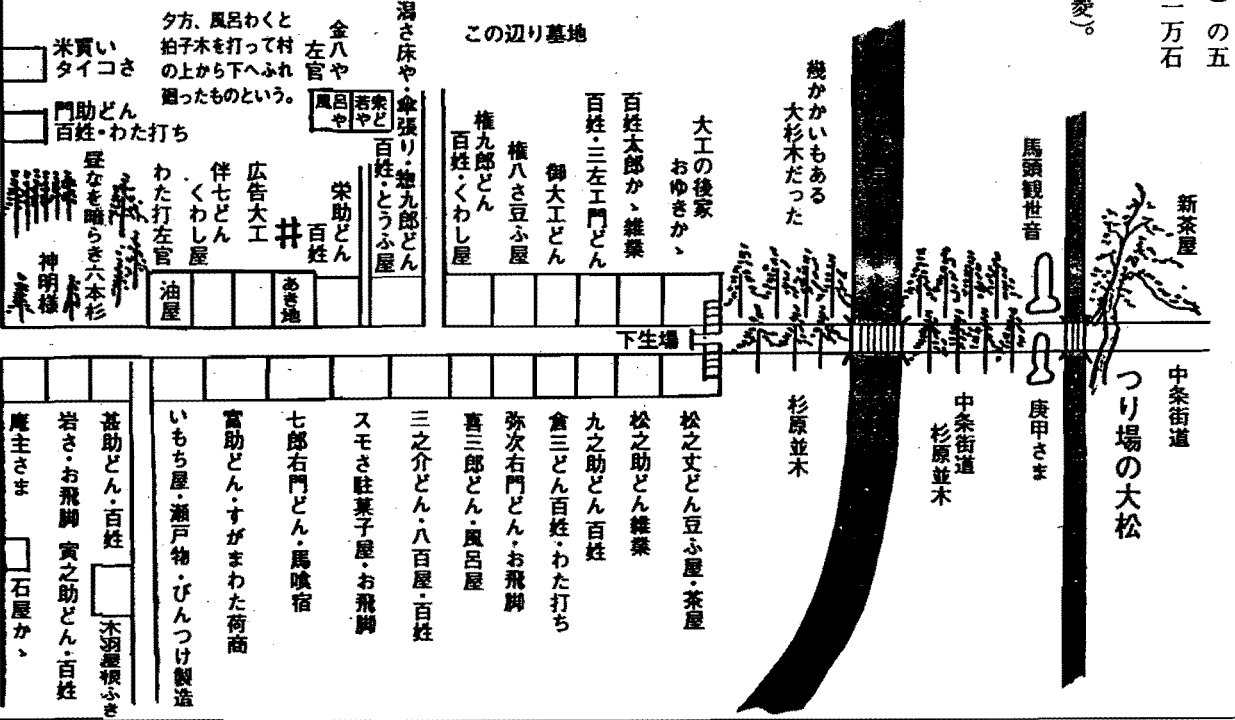


老中首座、左近工少将、甲府一五一、二八八石、松平吉保（柳沢）の五男、時睦、享保九年四月二八日、山梨より、越後・蒲原郡三日市一万石となる。

本図は江戸・下谷・三味線堀にあった上屋敷である（家紋四ツ花菱）。



左図・館村殿（柳沢）御陣屋



○本絵図は幕末時のものと思われる。治右工門どん事、高沢喜一郎氏が高沢幸太郎氏宛てに、お送りになり、その写しを陣代古屋家に所蔵されていたものである。

